



カワセミって どんな鳥？

カワセミは「水辺の宝石」と呼ばれるように、美しいコバルトブルーとだいだいオレンジの体色と、大きなくちばしが特徴の小さな野鳥です。

全国的に一年をとおして見ることができます。

主食は、小魚（モツゴ、メダカなど）やザリガニ、エビ、ドジョウなど主に淡水にすむ生き物です。水中めがけて一直線に飛び込み、一瞬のうちにくちばしで獲物を挟んで捕らえます。

そうした食性から、カワセミが生きていくためには、平地の川や池といった水辺のある環境が必要です。戦後の経済復興にともなう土地開発などで環境破壊が進んだ1960年頃、カワセミは一時、都心から姿を消しました。しかし水辺環境が改善され、現在は自然教育園のある港区をはじめ都心でもよくその姿を見かけるようになりました。

産卵と子育てを行うための巣は、水辺のしっかりとした土質の崖に横穴を掘って作ります。ときには1m近く掘ることがあります。巣には天敵の襲撃や川の増水時の水没などの可能性が低い切り立った崖が選ばれます。

基本DATA

和名	カワセミ (漢字表記：翡翠・魚狗・川蟬など)
鳥類分類	ブッポソウ目カワセミ科カワセミ属
学名	<i>Alcedo atthis</i>
英名	Common Kingfisher
分布	ヨーロッパ・アフリカ北部・インド・東～東南アジアなど 北方にいるものは冬季に南下し、その場で越冬する 日本では <u>留鳥</u> * (北海道では冬に本州に渡るため <u>夏鳥</u>)*

*留鳥 同じ地域に一年中生息する(長距離の季節移動をしない)鳥

*夏鳥 春になると南方から渡来して繁殖、秋に渡去する鳥

基本DATA

全長* 約 17 cm

体重 約 35 g

翼長 約 7 cm

翼開長 約 25 cm

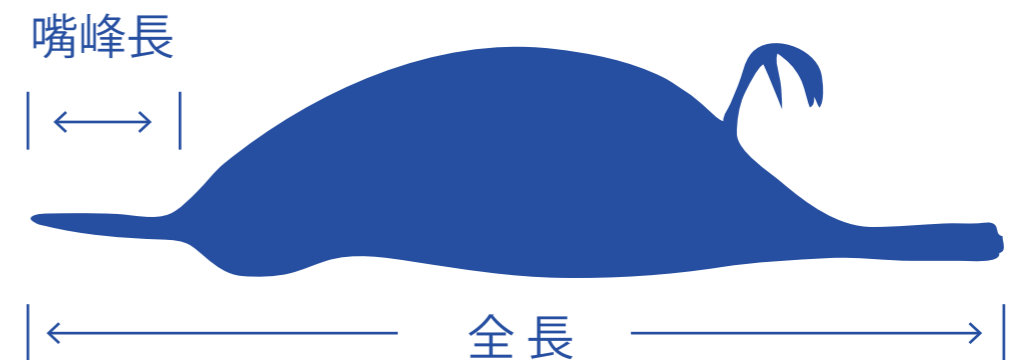
しほうちょう
嘴峰長* 約 4 cm

*全長

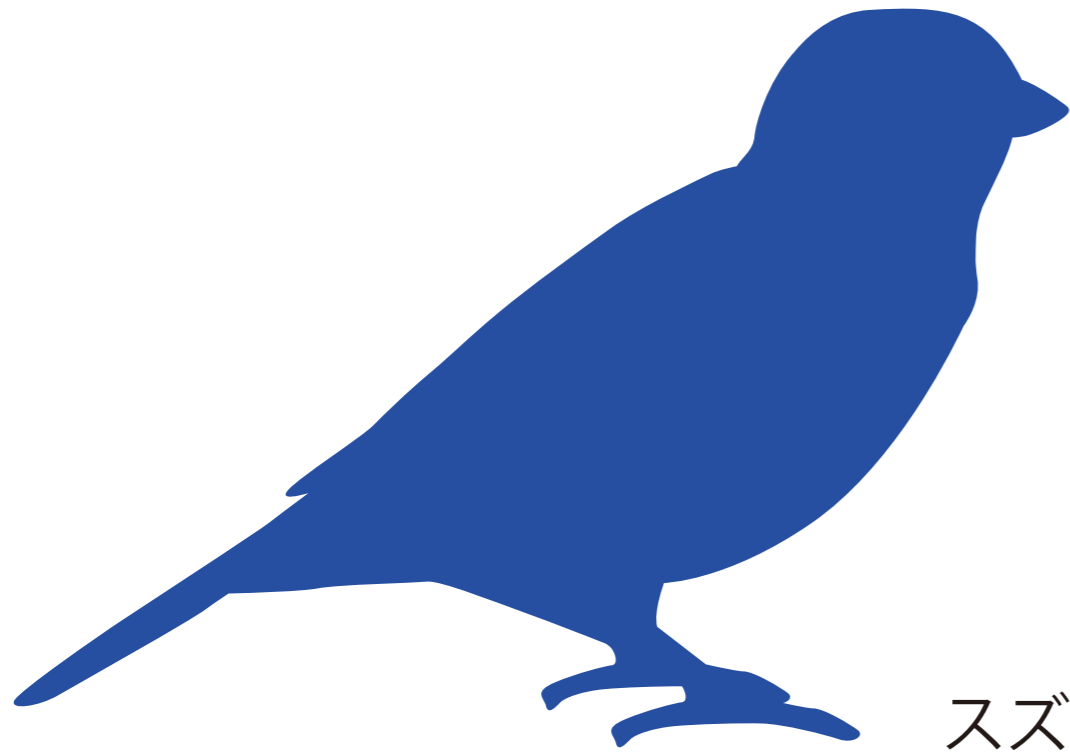
くちばしの先端から尾羽の先端までの長さ
鳥の全長は、鳥を仰向けにして首を軽く伸ばして測る

しほうちょう *嘴峰長

くちばしの付け根から先の長さ



大きさと鳴き声



スズメ

全長 約14.5 cm



カワセミ

全長 約17 cm



カワセミの鳴き声を聴いてみよう♪

日本の鳥百科
サントリーホールディングス株式会社
<https://www.suntory.co.jp/>



カワセミの

狩り

大きなくちばし、小さな足や短い尾など、カワセミの体は水中の獲物を捕らえるために適した形状をしています。
ここではカワセミの「狩り」の流れをご紹介します。

待ち伏せ

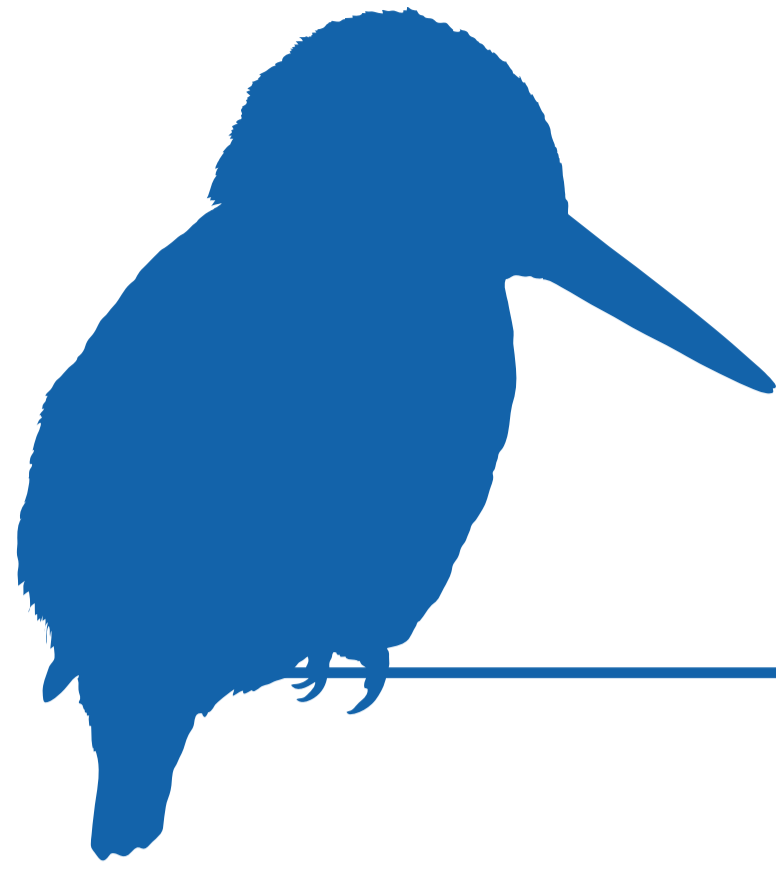
水辺の樹木の枝や杭、石などに止まり、左右上下をうかがいながら水面をじっと見下ろし、「狩り」のチャンスを待ちます。ちょうどいい止まり場のない広い川や池では、ヘリコプターのようにホバリング(停止飛行)しながら待つこともあります。

飛び込み(ダイビング)

「ここぞ」というタイミングで水中の獲物目がけて一直線に飛び込みます。獲物を長いくちばしで挟んで捕らえると、すぐに水中から飛び出します。

仕上げに…

水中から飛び出したカワセミは、獲物をくちばしに挟んだまま近くの止まり場へと運んでいきます。そして枝や石などに獲物の頭部を叩きつけ、弱らせてから丸呑みするのです。このとき、獲物が魚の場合はうろこや背びれが引っかからないよう頭部から、ザリガニの場合は尾から呑み込みます。



カワセミの

一年

春

3～5月

草木が芽吹き、越冬した虫たちが活動し始める春。カワセミの繁殖期が始まります。

繁殖の第一歩はオスとメスがペアになることです。そのために行われるのが「求愛行動」で、まずオスのラブコールから始まります。少し離れた場所に止まったオスのラブコールにメスが応えて鳴くと、オスはメスのそばを飛んだり近くに止まったりして背伸びやお辞儀のような仕草をし、最後は10～20cmの距離まで近づいて止まるようになります。

次に行われるのが、カワセミの特徴的な求愛行動のひとつ、「求愛給餌」です。オスが運んできた餌をメスが受け取るとペアが成立します。給餌のできたオスは胸を張りのどを見せるポーズ(ディスプレイ)で周囲にそれをアピールします。

その後、巣穴掘りと求愛給餌を繰り返しながら交尾を果たすと産卵、そして子育てがスタートするのです。子育ての時期は、ヒナに給餌するための獲物をくわえて水辺と巣の往復を繰り返す親鳥の姿がよく見られます。

夏

6～8月

まだまだ繁殖期は続きます。この時期、最初に生まれたヒナたちが巣立ち、2度目の繁殖に取り組んでいるペアも少なくありません。

カワセミのヒナは、途中で命を落とす場合もあるものの、一度の繁殖で5～7羽が巣立ちます。巣立ち後間もない幼鳥は、成鳥に比べると体全体が黒っぽく、羽の光沢は少ないです。足が黒く、くちばしの先端が白いうのもこの時期ならではの特徴です。飛行や採餌など、当初はあらゆる行動でたどたどしさを見せますが、経験を積み、日に日にたくましくなっていきます。

秋

9～11月

木々の葉が色づく紅葉の秋。胸と腹部を中心に黒っぽかった幼鳥の体色も足以外は黒さが消え、美しい成鳥に近づきます。

反対に、繁殖を2回以上繰り返したメスは体力も消耗しきって見るからに疲れた状態です。繁殖期が終わると、ペアだったオスとメスは行動を別にするようになります。カワセミは繁殖期以外は個別に縄張りを持ち、単独行動をします。そのため縄張りの確保は死活問題で、縄張りをめぐる攻防(縄張り争い)はよく見られる光景ですが、たくましくなった幼鳥が成鳥から縄張りを奪うこともあります。秋は新旧交代の時期でもあるのです。

冬

12～2月

秋に続き、オスとメス、成鳥と幼鳥にかかわらず縄張り内で単独行動をしている時期です。

寒さは厳しいものの、気温が下がると越冬のために小魚は集まる習性があるため、川などで複数の小魚をくちばしに挟んだカワセミの姿も見られるようになります。

冬を乗り切ると、春はもうすぐです。2月になるとオスとメスが意識し合うようになり、相手の縄張り内に頻繁に侵入するようになります。侵入された側はすぐに追い出しにかかりますが、次第に近くに止まるなど、春に向かって本格的な求愛行動が始まります。

トンボ VS カワセミ

止まり木をめぐる縄張り争い！



いつも縄張りを張る
トンボ。カワセミが
来るとトンボは追い
出される。



しばらくすると
トンボが再び止まり
木に。



トンボは、一番高い
所が好きなのだ。



着地成功！
カワセミにとっては
いい迷惑！